

CNCP 通信

VOL.142／2026.2.5

■今月の土木■



調圧水槽の内部

▼シリーズ：適疎な地域づくり

・適疎な地域づくりの研究
会メンバーによる事例の抽出：
横塚雅実

▼土木と市民をつなぐ活動

・土木学会市民交流研究小
委員会「土木ふれあいフェスタ」：
長塚麻子

▼身近な土木

・防災地下神殿-首都圏外郭
放水路-：田中努

▼事務局通信

■防災地下神殿

かの有名な「防災地下神殿」を見学してきました。

写真や話は見聞きしていましたが、やはりデカイ。長さ 177m×幅 78m。ちょうど公式規格のサッカーコート 1 面分の広さです。圧巻の 59 本の柱は、高さ 18m×幅 2m×長さ 7m。橋脚の規模感で、地下水の浮力に対する重み付けで 1 本 500ton だそうです。私は、若い頃、沈埋トンネルの設計をしていましたが、片側 3 車線の首都高川崎航路トンネルは、見かけの比重を 1.1 にするために、底版厚が 1.35m、その上に路床として同じくらいの厚さのバラストコンクリートを打ってあるのを思い出しました。調圧水槽は、2002 年 6 月に運用を開始して 23 年も経つのに、見学者のためにか、きれいに管理されているのも印象的でした。(笑)

肝心な「洪水対策機能」については、後述します。(田中努)

▼身近な土木に続く

